

天皇陵の謎

矢澤高太郎著

研究が深まれば深まるほど
わからないことがふえると、
昔授業で聴いた。その時はう
まく理解できなかったが、こ
の歳になると確かにそうだと
思う。最近の、天皇陵とされ
る巨大古墳の研究もその一つ
だ。今までのように、宮内庁
が発掘はもちろん天皇陵への
立ち入りさえ認めようとしな
い状態が続くかぎり、被葬者

は揺れ続け混迷は深まる。

著者は、新聞記者として長
く考古学を担当してきた。専
門家も足元に及ばないほど発
掘現場を歩き回り、多くの研
究者の声を聴き、現在の研究
状況を整理して問題を浮か
びあがらせる。卑弥呼の墓は
どこに。山辺の道に並ぶ行燈
山古墳と渋谷向山古墳は崇
神・景行両天皇の陵墓か。仁

徳天皇は大山古墳に眠ってい
るのか。推古天皇合葬陵や斉
明天皇陵に関する最近の議論
の行方は？ 語られる話題は
多岐にわたり定説は揺らぐ。

巨大古墳をこよなく愛する
著者は、宮内庁の態度に怒り
をたぎらせる。研究者には書
けない素直な感情のほとばし
りが心地よく響く。それにし
ても陵墓決定の曖昧さ、修陵
という名の大規模な天皇陵作
りを知って驚く人は多いはず
だ。(文春新書、800円)